

美術科教育 専攻へ ようこそ

島根大学
教育学部
美術科教育
専攻

Art
Education
Course,
Faculty
of
Education,
Shimane
University





美術科教育専攻では、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史、美術科教育の各分野の特徴を生かした環境で、それぞれの専任教員により、その実技や理論、また、子どもたちとのふれあい体験や教育実習等とおした教師の実際的な指導力など、基礎から専門へと幅広く学ぶことができます。

美術を学びたいと考えている人、美術教師をめざしている人は、ぜひ本専攻へ!

美術科教育専攻のカリキュラム

学年	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業・修了制作展				
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
美術科教育			美術科教育法概説	美術科教育法演習	美術科教材研究	美術科授業研究	卒業研究						
教科専門 (美術5領域)	絵画・彫刻・デザイン・工芸・芸術学基礎概説	絵画・彫刻・デザイン・工芸実習Ⅰ 美術理論実習	絵画・彫刻・デザイン実習Ⅱ	絵画・彫刻・デザイン演習A	絵画・彫刻・デザイン演習B								
内容構成研究			絵画・彫刻・デザイン・工芸概論	美術理論概説									
			美術科内容構成研究A・B・C										
1000時間 体験学修	基礎体験	専攻別体験学修											
	学校教育 体験	学校教育実践研究Ⅰ			学校教育実践研究Ⅱ				教職実践演習				
		学校教育実習Ⅰ	学校教育実習Ⅱ	学校教育実習Ⅲ	学校教育実習Ⅳ・Ⅴ	学校教育実習Ⅵ							



私の教育実習

赤木沙織

2019年卒業 | 美術科教育専攻
出身高校: 岡山県立総社高等学校
現在: 島根県立中学校教諭

●教育学部では各学年で実習があります。特に重要なのが3年次の実習Ⅳです。今まで培ってきたものを生かし、実際に自分たちで指導案を作り、授業実践を行います。私が実践した授業は、線と点を用いて感情を表した抽象作品を制作するというものでした。実際に授業を行った後は、授業の良かった点や改善すべき点を挙げ、次の授業に生かしていきました。そして、少しずつ授業が形になっていくことに楽しさとやりがいを感じることができました。また、生徒たちが教師の予想を超えた学びや成長をする姿を目の当たりにし、この仕事の魅力を知る機会となりました。本実習を通して、教師の仕事に具体的なイメージが持てました。

分野紹介

絵画 Painting

●絵画は平面上に現実とは違った別の空間を作り出す芸術ですが、授業ではその絵画の特質探求の為、まず造形としての絵画の見方や表現の仕方を習得します。この基礎的な能力をもとに、油彩、水彩など各種素材による描画制作や、アクリルやコラージュなどによる抽象制作等の現代的表現、コラグラフなどの版画も学びます。そして、これらの制作体験をもとに美術教材への理解を深めます。

教員 新井知生(2019年度末まで)

専門分野 絵画制作、現代美術、
コラグラフ版画



油彩による自画像の制作風景

彫刻 Sculpture

●彫刻領域では、粘土、木、石、テラコッタ等の素材を用いて立体作品を制作し、普遍的な芸術表現に取り組めます。具体的には、人物モデルを観察して制作する「首像」や、自由な発想にしたがって創作する「抽象彫刻」、またそれらを融合する現代的彫刻表現(インスタレーション等)にも挑戦します。更に、様々な素材体験を通して多角的に教材研究を行う力を育みます。

教員 藤田英樹

専門分野 彫刻、木彫、
ワークショップ



木彫の授業風景

デザイン Design

●一般的にデザインとは「色や形を使って装飾すること」と思われがちですが、それだけではありません。デザインにとって最も特徴的なところは、受け手(他者)を見据えて、それを十分に理解し、計画・設計したうえで意匠を施す行為自体にあります。

●そういった「行為」は、広く教育者にとって欠くことのできない普遍的な能力であると言えるでしょう。

教員 小谷充

専門分野 視覚伝達デザイン
(グラフィック・デザイン、タイポグラフィ等)



パソコンを使ったデザインの授業風景

分野紹介

工芸

Craft

●現代において工芸(ものづくり)に着目することは、生活や人生のテイスト(味)を高める意義を有するとともに、物事の成り立ちや仕組みについての知恵を学び、獲得するという意味があります。よって、工芸活動は物事の能動的な探求精神を養うことでもあります。具体的な学習としては、工芸の「理論的な学習」「歴史的な学習」「造形力の育成」「素材の体験」「技術の習得」などを授業で行います。

教員(非常勤講師)
佐藤賢司(大阪教育大学)
福井一真(愛媛大学)



鍛金の授業風景

美術理論・美術史

Aesthetics & Art History

●美学・美術史・芸術批評の基礎知識を身につけ、古今東西の人類の芸術活動に目を開く端緒とします。それと共に、美術館の見学や映像資料により芸術を鑑賞する経験の充実をはかります。
●鑑賞力の向上は美術教員の素養であると共に人間的成長の不可欠な一環でもあります。

教員(非常勤講師)
上野小麻里(島根県立美術館)
河野克彦(島根県立美術館)
柳原一徳(島根県立美術館)



西洋美術史に関する授業風景

美術科教育

Art Education

●美術科教育は、児童生徒一人一人の個性や創造性の伸張等を図り、調和のある人間的成長の実現を願う学問です。具体的には、美術科教育の意義や学習内容・方法等について、その理念や史の変遷、子どもの発達等のさまざまな視点から理解を深めます。そして、実際的な教材づくりや模擬授業を試みたり、附属校教育実習等の実体験へと発展しながら美術科教師としての実践的指導能力を育みます。

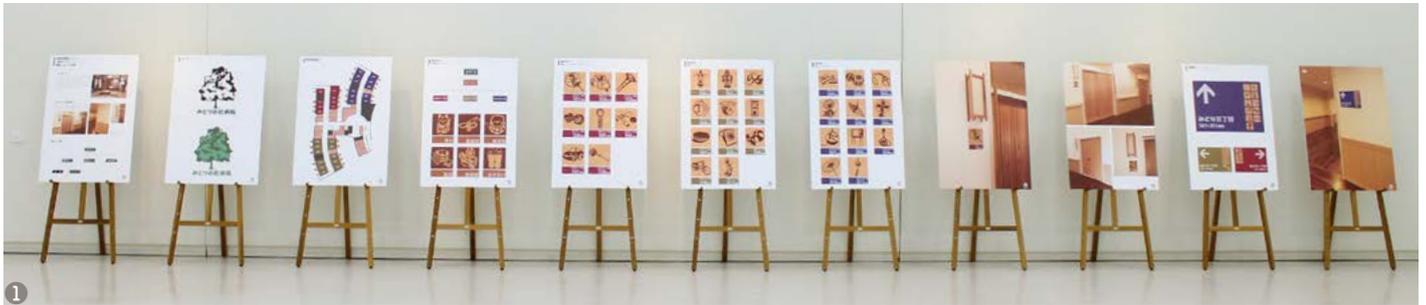
教員 有田洋子
専門分野 美術教育学、美術教育史、鑑賞教育



教材作成の話し合いの風景

卒業制作・論文

2012年度



①



②



③



④



⑤



⑥

【デザイン】

- ① 尾崎怜美「高齢者医療における「昭和モダン」をテーマにした病院のサイン計画」
- ② 松本里絵「有機形態の集積によるコンポジションの研究」

【絵画】

- ③ 藤原あゆみ「感情の抽出による心象表現の研究」
- ④ 勝部浩美「「しわ」の絵画的表現の研究」

【美術科教育】

- ⑤ 片寄菜美子「学校と美術館における鑑賞教育の違いについての考察」

【彫刻】

- ⑥ 原田由美子「触覚に働きかける木彫表現の研究」

私の卒業研究

「触覚に働きかける木彫表現の研究」



高橋由美子 (旧姓: 原田)

2013年卒業 | 彫刻専攻
出身高校: 島根県立安来高等学校
現在: 島根県公立高等学校教諭

● 自分の興味があることをとことんやれる時間で、大学生活の集大成ともいえる卒業研究です。うまく進まず苦しいときもありましたが、自分と向き合いながら取り組みました。達成感も大きいし、自分の自信にも繋がっています。また、教師として、子どもが五感を通して全身で学んでいくことを大切にしていきたいと思うようになりました。

卒業制作・論文

2013年度



【彫刻】

①井上沙耶

「木の本質を内包する木彫表現の研究」

②田野さつき

「スプーンの形態美を抽出した彫刻表現の研究」

③横田愛

「家畜をモチーフにした彫刻表現の研究」

【絵画】

④下谷幸子

「人物画による内面表現の研究」

⑤滝澤茜

「人物画における色彩表現の研究」

【デザイン】

⑥田中由紀

「写真とコピーライトを重視した広告表現の研究」

⑦糸原加奈子

「女性性に基づくグラフィック表現の研究」

【工芸】

⑧石原翔太

「有機形態における立体表現の研究」

【美術科教育】

⑨月森香愛

「ダ・ヴィンチ『最後の晩餐』
ギルランダイオ『最後の晩餐』
の比較による鑑賞教材化」

私の卒業研究

「触覚に働きかける木彫表現の研究」



井上沙耶

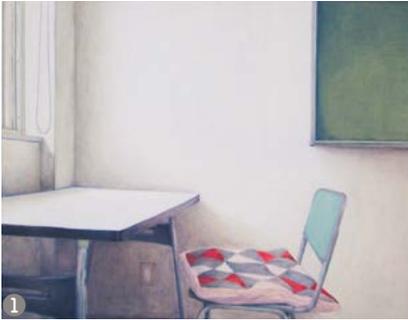
2014年卒業 | 彫刻専攻
出身高校: 島根県立安来高等学校
現在: 神戸市立学校教諭

●私の卒業研究は、1回生の時に受けた授業で木に興味を持ったことがきっかけでした。丸く磨かれた木に魅力を感じて、彫刻ゼミに入りたい、木で制作がしたい、と早い時期から卒業研究を意識していました。しかし、具体的に何を作りたいかは4回生になっても悩んでおり、先生との相談や、制作してみることを通して、深化させていきました。

●私の卒業研究は、大学4年間の学びの集大成になったと思います。自分が興味を持ったことを、長い時間をかけて深められたことに満足しています。制作中は悩んだこともありましたが、とても楽しい時間でした。

卒業制作・論文

2014年度



【絵画】

① 狩野寛子

「日常風景における静寂さを内包する絵画表現の研究」

② 田中芽衣

「絵画における生きる感覚の表出についての研究」

【デザイン】

③ 金山睦美

「文字オブジェによる意味表現の研究」

【工芸】

④ 岡田裕幸

「金属素材による有機形態の制作」

⑤ 柿田崇智

「金属素材によるインテリアの制作」

【彫刻】

⑥ 清谷友紀

「木の形からの見立てによる木彫表現の研究」

⑦ 森井茜

「パーツの組み合わせによる人物表現の研究」

私の卒業研究

「金属素材によるインテリアの制作」



柿田崇智

2015年卒業 | 工芸専攻

出身高校: 島根県立大田高等学校

現在: 島根県公立特別支援学校教諭

● 幼い頃から虫の形態に魅力を感じていた私は、入学当初から卒業研究にその要素を取り入れたいと考えていました。しかし、いわゆる虫と呼ばれるものは一般的に敬遠され、嫌悪感を抱いてしまう人は少なくありません。インテリアとして生活の中に組み込んでも、虫の魅力を感じられるフォルムを目指し、試行錯誤を繰り返しました。

● この制作を通して、様々な要素を複合的に考え、実践する力をつけることができたように思います。計画通りに制作が進むことは殆どありませんでしたが、問題が生じる度に改善し、乗り越えることができました。ゼミの先生をはじめ、多くの先生方にご指導頂きながら充実した制作ができました。

卒業制作・論文

2015年度



[デザイン]

① 平塚菜奈

「写真を中心としたインスタレーションの研究—空間の異化を通して—」

② 木村修平

「透過による混色と形態の研究」

③ 由村和香奈

「形と意味の類似性に着目したグラフィック表現の研究」

[絵画]

④ 小田紗耶加

「日常風景における絵画的構造の研究」

⑤ 熊谷ひかり

「『森』を主題とする絵画表現の研究」

⑥ 西根千尋

「自然の畏怖を感じさせる絵画表現の研究」

[彫刻]

⑦ 江角哲弥

「木のぬくもり、こちよさを追求した木彫表現の研究」

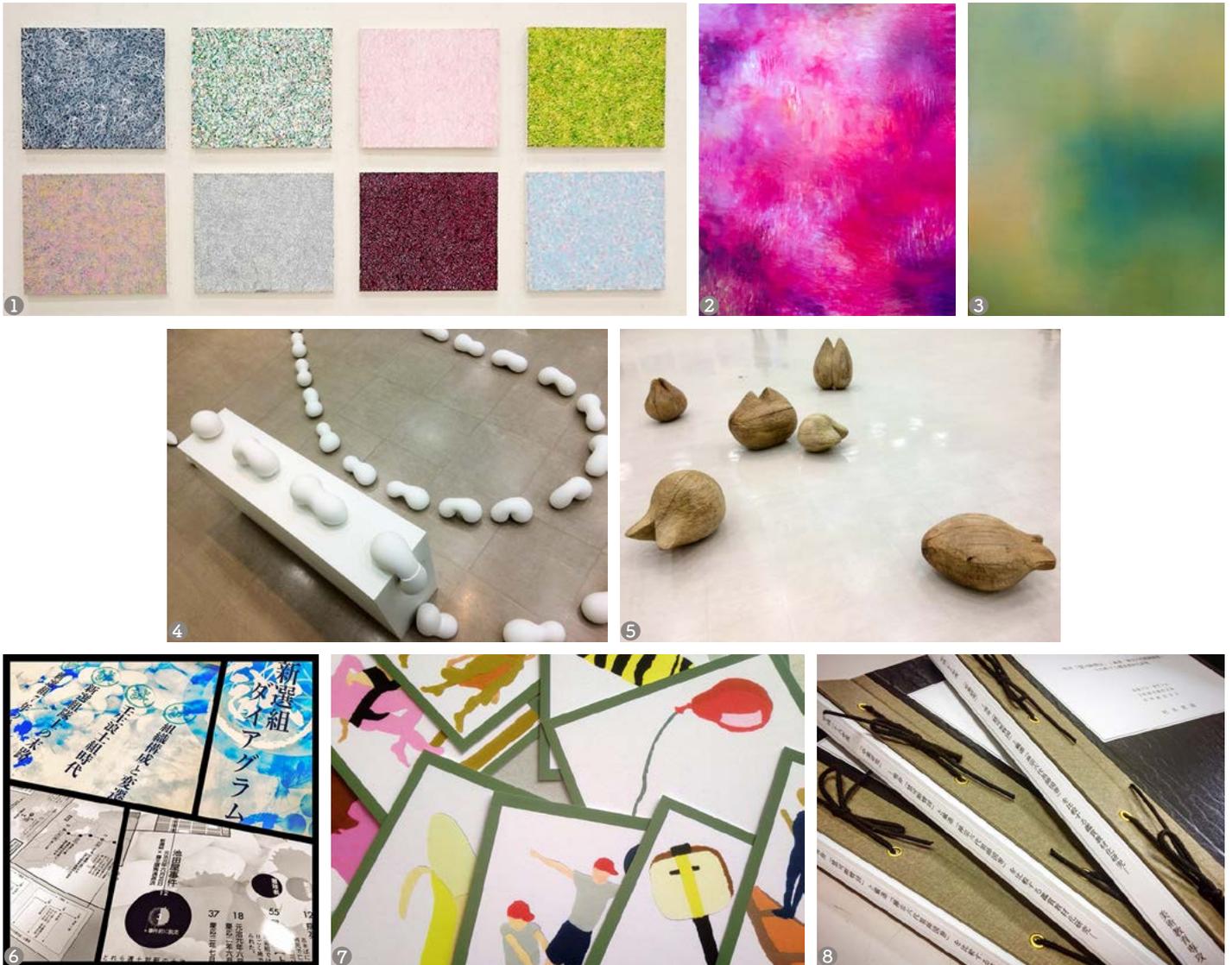
⑧ 野口真瑚

「植物の生命力を感じさせる彫刻表現の研究」



卒業制作・論文

2016年度



【絵画】①吾郷夏美「線によるオール・オーバー表現についての研究」②加藤尚子「感情の在り方と絵画表現に関する研究」

③福島凜「絵画における発生的空間表現の研究」

【彫刻】④中尾妃奈子「風船の形を利用した彫刻表現」⑤田部温子「植物の種子をモチーフにした彫刻表現の研究」

【デザイン】⑥川上聡美「日本の歴史や文化をテーマとしたダイアグラムの研究」⑦原田佳代子「言葉の複層的構造に着目した視覚表現の研究」

【美術科教育】⑧村本理緒「雪舟『慧可断臂図』と戴進『禅宗六代祖師図巻』を比較する鑑賞教材化研究」

私の卒業研究

「植物の種子をモチーフにした彫刻表現の研究」



田部温子

2017年卒業 | 彫刻専攻

出身高校: 島根県立松江東高等学校

現在: 島根県私立高等学校講師

●私の卒業研究は、大学3年生の時に受けた講義で見つけた植物のさやがきっかけでした。さやのハリのあるふくらみに魅力を感じ、その他の植物の種や殻の形と共に種の魅力的な形を表現した作品を制作しました。

●卒業研究はうまくいったこともあれば、なかなかことが進まないこともありましたが、素材と向き合いながら様々な課題を解決していく中で、1つのことに捉われるのではなく、大局的に見ることの大切さを実感することができたと思います。また、ゼミの先生から多くのご指導を頂いたり、学生から刺激を受けたりして、自身の表現の幅を広げることができました。この経験を生かして、日々の授業や作品制作に繋げていきたいです。

卒業制作・論文

2017年度



【絵画】

①高坂翔平

「色彩を再構成した具象絵画の制作」

《spot_#4.2》

②岸本早代

「日常的な素材によるコラージュ表現および展示方法の研究」《Symphony》

【彫刻】

③柿田康利

「原木の生命感を引き出す彫刻表現の研究」《拍動》

④中野美咲

「板造り技法による有機的表現の研究」《いき》

【美術科教育】

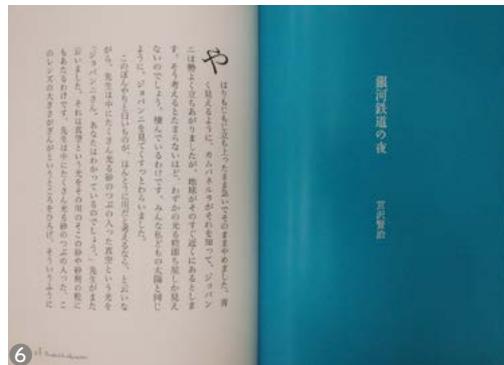
⑤高橋知沙

「絵本の鑑賞教材化研究」

【デザイン】

⑥平田美奈穂

「オートマティズムにおけるタイポグラフィの研究」《知っているはずの知らない話》



私の卒業研究

「日常的な素材によるコラージュ表現 および展示方法の計画」



岸本早代

2018年卒業 | 絵画専攻

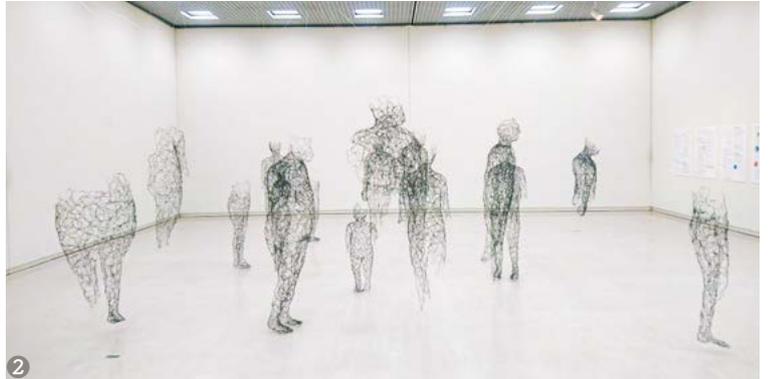
出身高校: 島根県立松江東高等学校

現在: 島根県公立中学校講師

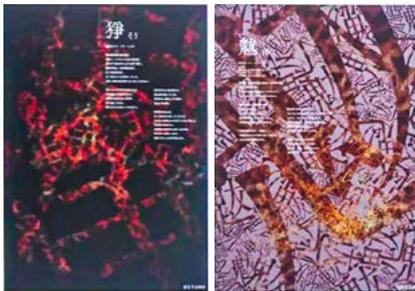
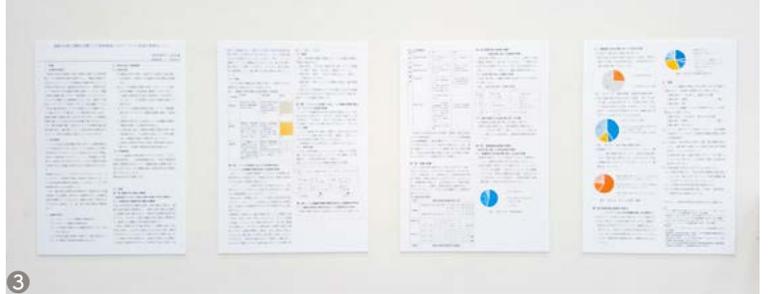
- 私は、紙やプラスチック、布など身近に存在する物の「素材感」に魅力を感じています。そのような思いから素材の感触や醸し出す空気感を体全体で感じてもらえるような表現方法の研究をすることにしました。そのため、展示では作品を外から見るだけでなく、体感的に鑑賞してもらえるようにインスタレーションの形式を取り入れました。
- 卒業研究では、素材と向き合いながら、最良のものになるよう多角的な視点で捉え、いくつもの方法を試し、実践していくことの大切さを実感することができたと思います。思うように進まないこともたくさんありましたが、自分が興味のあることに精一杯打ち込むことのできた有意義な時間でした。

卒業制作・論文

2018年度



- 【彫刻】 ①清水恵利「異素材の組み合わせによる彫刻表現の研究」
②西本奈央「線素材による彫刻表現の研究」
【美術科教育】 ③赤木沙織「描線の分析と理解を目標とした教材開発—エゴン・シーレ作品を事例として—」
【デザイン】 ④石川佳那「漢字の由来と意味を基にしたタイポグラフィの研究」
【絵画】 ⑤石原実可子「日常風景における絵画表現の研究」
⑥影山蓮太「存在認識における絵画表現の研究」



私の卒業研究

「漢字の由来と意味を基にした タイポグラフィの研究」



石川佳那

2019年卒業 | デザイン専攻
出身高校: 香川県立観音寺第一高等学校
現在: 香川県公立中学校講師

●私は、小さなものが密集する姿に興味があります。そのため、研究当初は同じ形が反復・密集する表現を試していました。試作を繰り返すなか、素材として使用していた漢字のもつ物語性に惹かれるようになり、漢字の意味や由来を漢字自体の密集で表すことにしました。それまでは感覚的にしか捉えずそのままにしていた興味を、言語や視認できる形に組み立てることができたと思います。自分の興味のあることに対して、深く考察できた有意義な時間でした。

教員となって



西本奈央

2019年卒業 | 彫刻専攻
出身高校: 鳥取県立倉吉東高等学校
現在: 鳥取県公立中学校教諭

- 現場で実際に働くとなったように授業を展開できないことや子どもたち一人ひとりとゆっくり話ができないことのほうが多く、反省の毎日です。しかしその状況を自分なりに分析し改善していくことに大切さを感じるのには大学で基礎を積み重ねたことにあります。
- また、大学では漠然とした教師像ばかりを思い描いていましたが、実際の子どもたちを目の前にすると、彼らにとってどんな教師でありたいかを真剣に考えるようになりました。落ち込むことも沢山ありますが、振り返りのプリントなどで授業がおもしろいと言ってくれる子どもが少しでもいると次も頑張ろうという気持ちになれる仕事です。



影山蓮太

2019年卒業 | 絵画専攻
出身高校: 鳥取県立境高等学校
現在: 鳥取県公立中学校教諭

- 子どもたちは、見たこと・聞いたことから様々なことを学び、成長していきます。そんな子どもたちに深い学びを提供することは大変だと、教師になった今とても実感しています。そんな子どもの著しい成長に応えるために、私自身も日々学び続けています。教師であるからこそ、学びのプロフェッショナルになることが必要だと感じています。
- 私は美術が好きです。「好き」だからこそ「気になる」、「もっと分かりたい」と思います。子どもたちにとって「好き」と思えることを共に探し、学んでいけたらと思っています。



柿田康利

2018年卒業 | 彫刻専攻
出身高校: 島根県立大田高等学校
現在: 島根県公立小学校教諭

- 教師は出会う子どもの将来を決めます。好きな教科、嫌いな教科、褒められたことなど、教師と関わる中で、子どもの世界が変わっていきます。そんな重責を担う教師に必要なのは、多様な経験だと、今強く実感しています。教師は知識だけではできません。子ども一人ひとりに応じた関わり方をするには知識に加え、経験が重要です。
- 私にとってその経験は美術でした。作品の良さを見つける、過程の頑張りに気付く、技法や知識を伝えるなど、美術や図工に限らない、教師に必要な経験ができました。今後もこの経験や知識を生かしつつ、子どもたちの夢への手助けができればと思っています。



糸原加奈子

2014年卒業 | デザイン専攻
出身高校: 島根県立大東高等学校
現在: 島根県公立中学校教諭

- 現在勤務をしていて、美術専攻としての経験、教育学部としての経験、双方に感謝しています。前者では、卒業制作での学びが最たるものでした。好きなことを突き詰めることの楽しさと苦勞を感じましたが、完成したとき、生涯美術を続けていきたいと改めて思いました。後者は、1000時間体験学修や教育実習を通し、現在の学級経営や部活動指導等に通じるたくさんの経験をさせていただきました。
- 大学で出会った仲間や先生方にも感謝しつつ、これからも美術教員として頑張っていきたいです。



山本晴香

2012年卒業 | 美術科教育専攻
出身高校: 私立益田東高等学校
現在: 島根県公立中学校教諭

- 卒業してすぐの赴任校で一番初めに教えていただいたことは、「教員とは子どもの人生に関わる仕事である」ということです。この時、責任や使命という言葉が重くのしかかったように感じました。それと同時に、やりがいがあると感じたのも覚えています。生徒からもう3年間という時間の中で、私が伝えられることはどのくらいあるのでしょうか。困った時は大学での学びを思い出し、授業に活かすことも多いです。そうやって私が今生徒たちに伝えていることが、生徒たちのこれからの人生、未来を形作るひとつのピースになってくれたら、とても嬉しいです。



加藤舞 (旧姓: 山根)

2008年卒業 | 工芸専攻
出身高校: 島根県立松江北高等学校
現在: 島根県中学校教諭

- 卒業してはや数年、よく学生時代のことを思い出します。魅力的な先生方のご指導の下、作品制作やレポート、教育実習、ボランティア活動等で充実した4年間は、私の人生の宝物です。一つのことを突き詰めてつくことは楽しいばかりではなく、葛藤の末に苦しむこともありました。しかし、それを乗り越えたときには、人としての成長を実感することもありました。現在、県内で美術教員として勤めていますが、生徒の人生を共に“つくる”ということに最大のよろこびを感じています。

美術科教育専攻における 1000時間体験学修

●美術科教育専攻では「学校教育実習」をはじめ様々な教育現場での体験を通して、美術を多角的に学んでいます。教育実習では3年次に行う本実習をめざして、教科専門(美術5領域)と美術科教育の授業を併せて修得し、さらにその両方の内容が含まれる「内容構成研究」において、実際に本実習で実践する教材の開発研究を行います。

●また、専攻別1000時間体験学修として様々な体験メニューを用意しています。「卒業制作展」ではギャラリートークを実施し、社会活動としての展覧会を開催します。その他、美術館で行われるワークショップに参加するなど、美術を通じた社会参画と地域貢献の実践をかさね、美術科教師にとって必要な能力を総合的に学び、育んでいきます。



島根県立美術館で実施したワークショップの様子



1000時間体験学修で 得たもの

高橋由衣

4年生 | 美術科教育専攻
出身高校: 島根県立平田高等学校

- 1000時間体験学修として、3年生時に島根県立美術館で行うワークショップの企画・運営をしました。
- 子どもから大人まで幅広い年代の方に楽しんでもらうため、何度も試作や話し合いを重ねました。準備は大変でしたが、それによって得られた子どもの笑顔、楽しかったという感想は、何事にも変えられない充実感をくれました。私にとって子どもとの関わり方、準備の大切さを知るよい経験になったと思います。

卒業制作展



ギャラリートークの様子

●4年間の学びの集大成として年度末に「卒業制作展」を島根県立美術館で開催しています。絵画、彫刻、デザインの作品展示とともに、美術科教育の論文要旨、美術館でのワークショップや教育実習の内容などもパネル展示されます。また、会期中に「ギャラリートーク」を実施し、地域の人々と交流しています。

卒業生の進路

- 2012年度
 - 神戸市小学校教諭 ●島根県小学校講師
 - 鳥取県小学校講師 ●鳥取県中学校講師 ●企業他
 - [進学] ●広島市立大学大学院
- 2013年度
 - 神戸市小学校教諭 ●神戸市中学校教諭
 - 島根県小学校講師 ●島根県高等学校講師 ●企業他
 - [進学] ●岡山大学大学院
- 2014年度
 - 島根県養護学校教諭
 - 島根県小学校講師 ●島根県養護学校職員
 - 企業他
- 2015年度
 - 島根県中学校講師 ●岡山県中学校講師
 - 和歌山県中学校講師 ●神戸市中学校講師 ●企業他
 - [進学] ●大阪教育大学大学院
- 2016年度
 - 島根県高等学校講師
 - 島根県小学校講師 ●山口県小学校講師
 - 企業他
- 2017年度
 - 島根県小学校教諭 ●島根県中学校講師
 - 兵庫県中学校講師 ●企業他
 - [進学] ●岡山大学専攻科
- 2018年度
 - 島根県中学校教諭 ●鳥取県中学校教諭
 - 島根県中学校講師 ●香川県中学校講師
 - 企業他

島根大学教育学部 美術科教育専攻

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

<https://www.edu.shimane-u.ac.jp/>

●藤田英樹 tel/fax: 0852-32-6324(研究室)

e-mail: hidekif@edu.shimane-u.ac.jp

●入試等の内容につきましては、「学生募集要項」または島根大学ホームページをご覧ください。また美術科教育専攻入試等についてのご質問は、藤田まで電話またはメールでお問合わせください。